

ODA

発行 社会福祉法人 沖縄県身体障害者福祉協会
 編集 沖縄県障害者社会参加推進センター
 〒901-0516 沖縄県島尻郡八重瀬町字仲座 1038 番地 1
 TEL(098)851-3455 FAX(098)851-3855
 ホームページアドレス <https://www.okisin.jp>
 Eメールアドレス okisinky@blue.ocn.ne.jp
 頒価一部 100円（会費に含まれています）

沖縄県障害者社会参加推進センターだより 第66号

沖縄県手をつなぐ育成会

第30回沖縄県ゆうあいスポーツ大会

令和5年12月2日（土）、沖縄県総合運動公園を会場に「第30回沖縄県ゆうあいスポーツ大会」を開催し、八重山地区を含む沖縄県内各地から34団体、約1,000名の選手が会場に集まりました。



3年ぶりに規模の大きな大会を開催することができた事、さらに参加選手の喜びにあふれた笑顔にふれることができ、主催関係者一同、実に感慨無量でありました。

大会は、通常行われていますトラックでの陸上競技、フライングディスクに加え、選手高齢化の為に新設した『ウォークラリー』を開催しました。

本大会は知的障がいのある人の社会参加活動の促進、スポーツ技術の発達、仲間との親睦、県民への障がい者啓発などを目的として30年目を迎えることができました。

この大会を通じ、障がいのある人達が地域で豊かに暮らす姿を広く県民の皆様にご理解いただき、障がいの有無に係らず、互いに尊重し、支え合える共生社会の実現に繋がることを望んでやみません。

本大会にご支援・ご協力いただいた関係機関やボランティアの皆様にご心より感謝を申し上げます。

沖縄県精神保健福祉会

精神保健福祉研修会『家族大会2023』

沖福連では、障がい者家族会や関係機関のみならず、皆さまへ呼びかけて、精神保健福祉研修会『家族大会』を毎年開催しています。2023年10月20日（金）、西原町のさわふじ未来ホールを会場に、アメリカで活動する全米精神障害者家族会連合会サウスベイ支部内の日本語グループの皆さんとオンラインでつないで、お互いの状況について情報交換を行ないました。



話の中で特に印象に残ったことに、アメリカの社会において徹底されている「自己決定」の考え方がありました。例えば精神科の治療を受けることも拒否することも、基本的には個人の意思に委ねられていて選択は自由ですが、その結果については「自己責任」として本人が負わなければなりません。だからこそ、自ら積極的に情報を得て学ぶことや、必要な権利の主張などが、自分自身の人生を守ることにつながるのだと感じます。



本大会の様と、さらに後日のメールでのQ & Aなども収録した小冊子『こんな時代だから、つながる』を、ご希望の方に無料で差し上げています。もし関心があるようでしたら、どうぞお気軽にご連絡ください（※郵送が必要な場合には、送料のみご負担をお願いしています。ご了承ください）。
 連絡先：098-889-4011（担当：まじやま）

沖縄県身体障害者福祉協会

第63回沖縄県身体障害者福祉展

令和5年12月5日(火)～7日(木)の3日間、恩納村コミュニティセンターを会場に標記の展示会を開催しました。

広々とした開放的な会場に全34団体、253点の作品が展示されました。

初日にはオープニングセレモニーがあり、主催および長浜善巳/恩納村長のあいさつや、全作品の中から1点だけ選ばれる『恩納賞(開催地賞)』の表彰、テープカット式が行われました。

セレモニーには恩納村のゆるキャラ『ナビちゃん』も駆けつけて会場を盛り上げてくれました↓



今回は都合により3日間の開催でしたが、来場者からは「那覇からはるばる来たかいたがよかった」「全ての作品が個性的・創造力豊か」「車いすでもゆっくりと見れるスペースが良かった」など、良い評価をいただきました。

また、初出展の団体が見学に来た際に、自身の作品が展示されている様子を見た方が感動で涙する場面もありました。日々の創作活動を行なう方は多いと思いますが、それを発表する機会というのも大事ことだと改めて感じました。



各部門の受賞者への表彰は令和5年12月9日(土)に開催した、第56回沖縄県身体障害者福祉大会(本誌5ページ)にて行ないました。

近年、会場での展示と同時に公開していた『バーチャル福祉展』につきましては令和6年2月15日から、沖縄県身体障害者福祉協会ホームページにて公開を予定しております。作品個々の写真紹介や受賞者紹介動画など、毎年好評を得ている企画なので、公開の折は、ぜひご覧ください。

沖縄県視覚障害者福祉協会

パソコン教室の開催

令和5年7月18日より、視覚障害者を対象にしたパソコン教室を開催しました(全20回)。

内容は音声読み上げソフトを使ったタイピング練習やサピエ図書館の利用、インターネット閲覧などを行いました。

タイピング練習ではキーボードへ凸シールを貼って五十音入力や漢字変換などを練習しています。参加者はキーボードのホームポジションを起点にすることで、キーの配列をイメージしやすくなり、長い文章も入力出来るようになりました。

タイピングの練習後はデージー図書を体験しています。見えなくなったことで読書を諦める方が多かったようですが、インターネット上のサピエ図書館から自分の読みたい本を検索して、音声で読書を楽しんでいました。ある参加者は四十年前に読んだ本を改めて読むことができ、当時を懐かしんでとても喜んでいました。

デージー図書の体験後はインターネットの閲覧を行いました。インターネットを利用することで情報収集だけではなく、ネットショッピングやYouTubeなどの余暇活動にも活用できることを体験しました。ある参加者はYouTubeで読み上げ算や音響信号の音などを検索して楽しんでいます。

今回の講習を通して、参加された皆さんはある程度、パソコンの操作が出来るようになりました。このパソコン教室をきっかけに、今後もパソコンに触れて、生活の中で上手に活用して頂ければ幸いです。次年度も開催予定になっています。詳しくは沖視協までお問い合わせください。



日本オストミー協会 沖縄県支部

定例会の様子と開催日程

経験豊富なオストメイトが装具の取り扱い・処理等や各自の悩みや創意工夫について、一緒になって考え、和らげていくことを目的に当支部では下記表のとおり定例会（社会適応訓練研修および交流会）を開催しています。

令和6年1月19日（金）には、南部地区の定例会が開催され、初めての方を含む13名の当事者・家族および琉球光和の職員が参加しました。

はじめに福本聡支部長が、装具の給付金見直しを求め、各市町村を訪問したことへの反応を報告しました。明確な金額見直しの回答は無いものの、複数の市町村から問合せがあったようです。



今回は初参加の方もいたので、コロストミー・イレオストミー・ウロストミーと言った開口部/ストーマについての説明や、各参加者の悩み相談も行なわれました。ストーマの痛みに関する相談に対しては、痛みの種類をうかがい、みんなで原因を模索していきましました（痛みが無いのが普通、ちゃんと穴に合わせて貼付けができていないか・サイズは適切か、脂肪が引っ掛かると言われたことがある等の意見が出ました）。

また、長期間用のストーマ装具の使用についての感想が述べられたり、バケツや水道の分岐ソケット等を使い、自宅で装具を洗浄できる仕組みを作ったという創意工夫の話も出てきました。洗浄のために外出をする方も多く、自宅で洗浄できることに皆さん関心を持っていました。

【各地区の開催日等】

開催地	開催場所	開催日時
北部地区	北部地区医師会病院	毎月第1金曜日 13:30～
中部地区	※ 調整中 ※	
南部地区	(株)琉球光和	毎月第3金曜日 14:00～
宮古地区	沖縄県立宮古病院	令和5年10月25日 開催済み
八重山地区	沖縄県立八重山病院	令和5年12月1日 開催済み

沖縄県身体障害者相談員連絡協議会

第52回九州身体障害者福祉大会・第30回九州ブロック身体障害者相談員研修会

令和5年11月30日（金）～12月1日（土）にかけて、大分県ホルトホールを会場に標



記大会が開催され、九州各地から777名の参加（沖縄からは5名）がありました。

初日は身体障害者相談員研修会が2つの部会に分かれて行なわれました。私（豊平朝清/糸満市在）は『障害者相談員資質の向上と活動活性化』というテーマの部会に参加し、そこでは3人のパネラーの事例報告がありました。

長崎県佐世保の久保氏の話によると「内部障害者の相談員はとてもデリケートで、生活上の問題から医療の専門知識や医師との面談など多岐にわたる相談が持ち込まれる」とのことでした。また、行政との情報共有を深めるために障害者の名簿開示をお願いしているようです。

次に私が発表を行ない「人口の6%の障害者がいるが、その方々が社会復帰し自立・就労へと移行するには大変な努力が求められる」と話しました。視覚障害者の場合、事故や病気により人生半ばで障害を負うので、復帰するには多くの時間と努力が必要という現状があります。

最後に北九州市の吉松氏が「障害者の高齢化に伴い、日常生活用具や歩行装具・就労の相談、同行援護の利用など、多岐にわたる相談が発生する」ことを話されました。

パネラーの発表後、助言者からの短評や励ましの言葉や、会場からの質疑応答を交わすなど非常に有意義な研修となりました。

2日目は福祉大会が行われ、その中で沖縄県から崎原真純氏（組織活動功労表彰）、緑間優氏（特別表彰）の2名が表彰を受けました。

また、『障害者差別解消法の理解と障害者相談員の資質について』というテーマで、大分大学の滝口真氏による講話がありました。その中では障害者差別解消法がどのように作られたか・どのような理念を盛り込んでできたのか、それに加え、滝口氏自身の幼いころの体験を通して、相手に寄り添った相談とはどうあるべきかなどが話されました。



おきしんきょう通信



— 沖縄県身体障害者福祉協会 —

経営理念

一、利用者本位

一、社会貢献

一、責任と実行

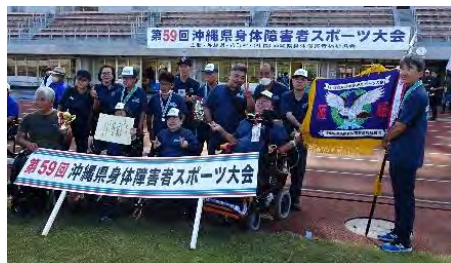
第59回 沖縄県身体障害者スポーツ大会

令和5年8月～10月にかけて、沖縄市陸上競技場（コザ運動公園）を主会場に、第59回沖縄県身体障害者スポーツ大会が開催されました。



コロナ禍前の運営方法・規模に戻った大会は、種目制限や昼食（飲食）の緩和をしつつも基本的な感染対策を実施しながら開催し、県内各地より558名の申込みがありました。

日程変更のあった競技や、例年と異なる会場での開催等、皆さまにはご面倒をおかけすることも多々ありましたが、無事に全日程を終了することができたのは、選手団をはじめ競技団体、ボランティアなど多くの皆様の支えのおかげです。



浦添市福祉地区
大健闘！
障害別リレーと
福祉地区対抗の
2冠達成です。

【団体対抗福祉地区部門】

優勝	浦添市福祉地区	159点
準優勝	南部福祉地区	151点
3位	うるま市福祉地区	140点

【障害別リレー】（車いす・聴覚・視覚・肢体不自由）

1位	浦添市福祉地区	1分26秒90
2位	八重山福祉地区	1分37秒20
3位	南城市福祉地区	1分40秒70

【各競技会の日程及び参加選手数】

■水泳競技／申込選手25名

令和5年8月19日（土）

奥武山公園水泳プール



■アーチェリー競技／申込選手13名

令和5年8月6日（日）→9月10日（日）

沖縄県立鏡が丘特別支援学校



■卓球競技／申込選手62名

令和5年9月16日（土）

豊見城市民体育館

■フライングディスク競技／申込選手184名

令和5年9月2日（土）→10月1日（日）

宜野座ドーム



■陸上競技／申込選手274名

令和5年10月14日（土）

沖縄市陸上競技場（コザ運動公園）



大会を通じてスポーツの楽しさを体験するとともに、県民の障害に対する理解を深め、障害者の社会参加の推進に寄与することを目的としているこの大会は、次年度第60回を迎える記念大会になります。より多くの皆さまとスポーツを楽しめるよう準備してまいりますので、よろしくお願いいたします。
※例年4月上旬には開催通知を行い、申込期限を7月上旬に設けています。参加を希望される方はお住いの市町村福祉課へお問い合わせください。

第19回 沖縄県身体障害者グラウンド・ゴルフ大会

令和5年11月12日（日）、沖縄県総合運動公園レクリエーションドームを会場に標記大会（沖縄県障がい者フィールドスポーツ開催事業）を開催しました。

今回は27チーム、121名の参加があり、ドーム内の4コースを使い、所狭しと競技に挑みました。



ドーム内はボールの伸びが非常に大きく、ちょっと力を加えると、瞬く間にホールポストを通過したり、せっかく中に入ったボールが外に出てしまったりと皆さん慣れるまでは悪戦苦闘していました。今大会の結果は以下の通りです。

優勝：うるま市身体障がい者協会 Aチーム

準優勝：チーム沖縄市

3位：聴覚障害者協会高齢部 Bチーム

個人の部 優勝：金城則文／南風原町（25打）



優勝した『うるま市身体障がい者協会』は令和6年度開催の九州身体障害者グラウンド・ゴルフ大会（熊本県）への派遣となります。個人の部優勝の金城則文さんは、皆さんが苦戦する中、第2ラウンドでホールインワンを3回出すという快挙を達成（なお、このラウンドは7打で終わっています）！

今大会は南城市身障協の協力で三線生演奏のもと、カチャーシーを踊り賑やかに閉会しました。



第56回 沖縄県身体障害者福祉大会



令和5年12月9日（土）、恩納村ふれあい体験学習センター ゆうなホールを会場に『第56回沖縄県身体障害者福祉大会』を開催しました。

スローガン『広げよう つなげよう 誰ひとり取り残さないインクルーシブな共生社会』を掲げた初の恩納村開催には県内各地より312人が集まりました。恩納村青年団によるエイサー演舞で幕を開けた大会の第1部では、身体障害者福祉事業へ貢献した方々への表彰が行なわれました。また、大会宣言（案）および大会決議（案）の採択は万雷の拍手のもと採択されました。



第2部は『子どもから大人へつなげる福祉教育』をテーマに、恩納村社会福祉協議会・恩納村身体障害者協会の皆さんが実践報告を行ないました。【地域共生社会】の実現にむけて、共生の文化を創る・一人ひとりの福祉意識の向上を目的に村内各小学校で行なっている福祉教育。車いす体験や認知症キャラバン、障害当事者講話などの内容や、福祉教育を経ての発表会の様子をお話いただきました。大会の最後には榎918さんによる短編映画上映を行ないました。音声ガイドや日本語字幕を駆使して、みんなで同じ映画を楽しむをコンセプトにしている取組みに参加者も興味津々でした。



福祉事業功労者／3名 ㈱沖縄メディコ代表取締役社長 末吉貞重・沖縄伴走ランナーネットワーク 八重山支部・井出祥子

特別永年勤続功労者／10名 古波蔵義照 仲原敏子・伊計秀樹・伊波聡・佐次田吉秀・堅秀一 山内広美・伊舎堂守雄・堀川恭尚・濱元加代子

永年勤続功労者／6名 砂川友孝・富本祐新 野原典子・吉川達也・譜久山淳・砂川洋輝

優良身体障害者援護団体／1団体
北中城村紙粘土サークル

第37回

九州身体障害者ゲートボール大会(派遣)

令和5年10月6日(金)に、福岡市の『雁の巣レクリエーションセンター』で開催された標記大会に、沖縄県代表として南城市身体障がい者福祉協会チームを派遣しました。



「年齢もあるからうち(南城市身障協)のチームは今回がラストチャンスだな。勝って帰ってくるよ～」と臨んだ今回は全15チームの参加があり、2勝2敗の結果とのこと。何より皆さんが無事に大会に参加できて、無事に帰ってきたことにホッとした派遣でした。



第16回

九州身体障害者グラウンド・ゴルフ大会(派遣)

令和5年9月29日(金)宮崎県木の花ドームにおいて、第16回九州身体障害者グラウンド・ゴルフ大会が開催されました。

沖縄県からは沖縄市障がい者福祉協会の「チーム琉球」が参加しました。団体戦は、大会参加全27チーム中26位という結果でしたが、個人戦は140名中73位(栄野比ミツ子さん)が県勢最高位と奮闘。大会期間中は、開催県の宮崎県身体障害者福祉協会をはじめ、九州各県から参加者と各地域の活動について情報交換を図り交流を深めることができました。



わったーしんかゆちゃー

★地域身障協や関係団体のご紹介★

今回は、●ボッチャ●が上手な石原会長率いる八重瀬町の紹介です!

【八重瀬町身体障害者協会】

(石原 清 会長)

【会員数】25名



【活動紹介】

6月: わくわくコンサートの開催
三線教室8回コース(社協共催)

8月: ボウリング交流会

9月: 料理教室4回コース(社協共催)

10月: モノづくり教室9回コース(社協共催)

1月: 体操教室回コース(社協共催)

3月: 交流ピクニック



その他: 県身体障害者スポーツ大会、G・G大会
ボッチャ教室、福祉展、福祉大会の参加



【一言コメント】

私たち八重瀬町身体障害者協会は事務局並びに行事を八重瀬町社会福祉協議会に手伝ってもらって運営しております。私たちも社会貢献の一環として社協が関わっている福祉教育(車イス・アイマスク体験、福祉講話等)と4小学校の手話クラブへの講師派遣等を積極的に行っています。

【問合せ】

住所: 八重瀬町字東風平 1318-1 (町社協内)

TEL: 098-998-4000

FAX: 098-998-8999

MAIL: yaese-shakyo@woody.ocn.ne.jp



※その他の市町村身体障害者協会へ連絡を取りたい! と思う方は、沖縄県身体障害者福祉協会へお気軽にお問い合わせください! お待ちしてます!

TEL: 098-851-3455 FAX: 098-851-3855

MAIL: okisin.sub@gmail.com